

# 2021年度 学校関係者評価報告書

学校名:あいち福祉医療専門学校

2022年8月1日

## 1 令和3年度 学校目標

当事者意識、貫徹意識、学園意識をもって学園ならびに学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえ「不易流行」の観点で「重見天日」を目指す、より一層の教育力と協働意識を高めて教育付加価値／学修成果を追求する。

- 1)「当事者意識」「貫徹意識」「学園意識」の自覚を高める自己点検と情報の共有・協働
- 2)出席率98%超、退学率4%以内、進級率・卒業率95%超
- 3)国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%(年内70%)
- 4)総定員充足率80%(352名)以上の安定確保が目標
- 5)Web活用プロジェクトの展開／iPad活用授業研究／遠隔授業研究
- 6)校友会運営の協働(部会活動の活性化)
- 7)3学科(C,PT,OT)実習指導者研修会
- 8)新指導要領に沿った介護技術講習
- 9)出前授業・総合学習受け入れ/実務者研修・総合確保基金研修・認知症入門研修
- 10)学園展開の海外との教育連携とともに実際の取り組み
- 11)介護福祉学科外国人留学生教育の工夫促進
- 12)他団体の介護福祉士養成システムとの協働
- 13)入学生176名(入学定員充足率88%)の目標
- 14)AOエントリー含む出願者数240名
- 15)SNSおよびトピックス活用へ三意識をもちホームページ広報の活発化
- 16)経費節減、教育研究経費・管理経費の在籍者数に応じて意図的削減
- 17)ペーパーレス/オンライン意識・整頓意識定着
- 18)養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理の計画的実施
- 19)学校目標のロードマップ共有／各数値目標の階層的把握
- 20)カリキュラムマップ(AP-CP-DP)に即したロードマップおよび卒業教育展開
- 21)情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

## 2 学校目標に対する学校関係者評価委員の評価・意見

- ①教職員の意識、行動の更なる活性化で、各学科の共通認識・連携を深めロードマップの作成に期待している。
- ②時代に求められるICT技術を活用する等、より良い授業を提供しようとする姿勢が見える。
- ③SNS等での情報発信について、卒業生に依頼して、学校のアピール及び職業のアピールが発信されると良い。
- ④介護現場の人材不足に起因し、外国人就労者の受入れ促進が進み始めている。外国人留学生に対する教育の質の向上を期待する。
- ⑤学生募集はかなり苦勞していると思うが、良い成果が出ているので、素晴らしいと思う。
- ⑥コロナ禍の実習は苦勞も多いと思うが、オンラインを活用したりリモート指導等を活用しながら、学生の不安解消にも繋げており素晴らしいと思う。
- ⑦少子化、コロナ禍、ICT教育への移行等、専門学校教育も大変革期に突入したと思われるが、教職員一丸となって、教育の質の向上のため頑張ってもらいたい。
- ⑧目標が数値化されており、目標到達度が理解しやすい。

## 3 学校関係者評価委員による評価平均(「令和2年度学校自己評価報告書」に基づく)

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1(教育理念・目標)	4.0	3.9	3.9
基準2(学校運営)	4.0	3.9	3.8
基準3(教育活動)	4.0	3.9	3.8
基準4(学修成果)	3.9	3.6	3.8
基準5(学生支援)	4.0	3.9	3.9
基準6(教育環境)	4.0	3.6	3.6
基準7(学生の受入れ募集)	4.0	3.9	3.9
基準8(財務)	4.0	3.9	3.8
基準9(法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10(社会貢献・地域貢献)	4.0	4.0	4.0
基準11(国際交流)	4.0	3.9	3.9
評価基準	4:適切な評価である 3:ほぼ適切な評価である 2:やや不適切な評価である 1:不適切な評価である	4:十分適切な取組みである 3:ほぼ適切な取組みである 2:あまり適切とはいえない取組みである 1:適切とはいえない取組み	4:十分な効果が期待できる 3:ほぼ十分な効果が期待できる 2:あまり効果が期待できない 1:効果は期待できず、改善を要する

## 4 「令和3年度学校自己評価報告書」について学校関係者評価委員より出された意見(自由記述)

- ①実習先によって評価や現場の状況が違うので統一した見解を求めることは難しいと思うが、理学療法・作業療法両学科で実施されるOSCE(客観的臨床能力試験)の効果がどれほどあるか知りたい。
- ②各実習先での臨床参加型実習の状況をどの程度把握しているか。
- ③多職種連携の機会を増やした授業展開を期待する。
- ④実習という新しい環境に飛び込むための免疫力を付ける必要があると思われる。卒業生を招聘して、実習の楽しさ、辛さ、身についた事等を話してもらえると良い。
- ⑤退学率については、実習での苦勞等それぞれ理由があると思う。十分な対応をしていると思う。
- ⑥退学率の増減は実習を受け入れる施設の役割も大きいと思われる。学校と実習施設が、より一層の情報共有の環境を作りたい。
- ⑦介護福祉学科は実習を行った施設先への就職が約70%と伺っている。受入側としても学生の持つベネフィットを向上させる対応を取ることが重要となるが、同時に実習について、今後も学校と相談できる機会を持ってもらいたい。
- ⑧課外クラブ活動は、学生同士の仲間意識や卒業後の交流にもつながる大切な活動だと思う。授業や実習もあり、学生は忙しいと思うが、支援をお願いしたい。
- ⑨海外研修や現地での国際交流は世界的な新型コロナウイルス感染拡大により困難になっているので、WEB等で海外の学生と交流を広げられると良い。

## 5 今後の改善方策等

- ①OSCE(客観的臨床能力試験)は養成施設指定規則で実施が義務付けられているが、評価項目が多岐に渡るため、本校では「基本」「基礎」項目に絞って評価している。評価項目については、評価委員の意見を頂戴しながら適宜変更を検討する。
- ②臨床参加型実習については、臨床指導者会議等で依頼をし、各臨床実習受入施設にて取り組んでいただいている。今後も実習先の協力を得ながら、臨床参加型実習を推進する。
- ③多職種連携の取り組みとしては、毎年4月と12月に学生全員が出身地域に分かれて交流する、学科横断的な地区別懇親会を実施している。また、令和4年度には、本校作業療法学科と安城碧海看護専門学校看護科2年生との多職種連携共同授業を実施する予定である。今後も多職種連携の機会充実を図る。
- ④各学科とも、機会を見つけて卒業生を授業に招聘し、実習のみならず働く生きがいや苦勞等を語ってもらっている。また、校友会の各部会が実施する卒業生研究会には卒業生のみならず、在校生の参加し、卒業生との交流を図っている。在学中に先輩の体験談を聞くことは、将来の職業をイメージできる絶好の機会ともなる。今後も在校生と卒業生の交流の機会を一層設ける。
- ⑤令和2年度の退学率2.4%で、例年と比較して大幅に減少したが、令和3年度は、その反動もあって7.7%と増加している。上級クラスの退学率が1年クラスより高いのが令和3年度の傾向であったことから、1年次カリキュラム学習の徹底を図るとともに、段階的学習・先に見える学習教科の連携をイメージするクラス運営をカリキュラムマップを基に教示共有を実現する。
- ⑥介護福祉学科では、各実習施設が実習方針等を学生に直接説明する「実習前ガイダンス」を開催している。その結果、学生と実習施設の不マッチを事前に防ぐことができ、実習先への就職が約70%と向上した。今後も実習施設と連絡を密にし、コロナ禍に対応する機動的な介護実習を実現する。
- ⑦各学科の時間割・長期の実習・国家試験対策などの密度高いスケジュールに対し、活動時間の共有を要する課外活動を組織することは困難である。課外活動のうちクラブ活動を組織できるか模索を継続する。学校行事については、政府や愛知県の方針に沿いながら、極力感染リスクを下げた学校行事を検討し、実行していく。
- ⑧令和3年度は、台湾新生医療管理専門学校看護学生と本校介護福祉学科2年生とのオンライン交流会が開催できた。今後も学園本部国際交流室の協力を得ながら、コロナ禍に対応できる国際交流を模索・実現する。
- ⑨学校関係者評価委員からはすべての項目について“3”以上の評価をいただいた。この評価に満足することなく今回学校関係者評価委員から出されたご意見も参考にし、学校運営に取り組み、“Well Being”を追求する所存である。